

11/12 <シンポジウム>「関西発 製造業のイノベーションと海外展開」報告

11月12日(月)、関西学院会館風の間に於いて、産業研究所×日本貿易振興機構×産経新聞シンポジウム、「関西発 製造業のイノベーションと海外展開」を開催いたしました。

産業研究所長の高林喜久生教授による開会挨拶のあと、第1部では「パワーバリアレス社会への挑戦 ～パワードウェアが重作業現場を変える～」と題したパナソニック子会社 ATOUN代表取締役社長の藤本弘道氏による基調講演、日本貿易振興機構大阪本部長の曾根一朗氏による特別講演「イノベーションがもたらす変革とジェットロの役割」、C-INK代表取締役社長の金原正幸氏による特別講演「大学発ベンチャーというものをやってみて、皆さんに伝えたいこと」が行われました。

第2部では、「第2次産業の新しい潮流と関西経済のグローバル化」と題したパネルディスカッションに、藤本弘道氏、曾根一朗氏、金原正幸氏、本学商学部4年生の永田七重氏に登壇いただきました。産業研究所アンナ・シュラーデ准教授がコーディネーターとして加わり、具体的に「自由貿易が推進される中、保護主義的動きも強まるところに、日本の製造業はこの難局をどう乗り切ることができるか」、「グローバル展開を目指すイノベティブな製造業が、事業活動を継続していくにあたり、関西ならではの強みと弱みは何か」、「世界で通用するイノベーションを生み出すために今求められている人材は何か、それを大学教育においてどのように育てられるのか」等について考えました。

産経新聞大阪本社編集企画室長の佐藤泰博氏の閉会挨拶のあとは、登壇者・自治体・企業・学生が直接交流することを目的にした交流会が開かれました。実際にATOUN社のパワードウェアの試着を体験する機会が設けられ、また学生にとっても直接企業の方々にお話しをうかがえる大変貴重な機会となりました。

■参加者：130名（うち交流会75名）

